

波多利朗の Funky Goods

◎祝！ 連載5周年記念企画 帰ってきたPoqet PC Poqet PC Plusの逆襲！



イラスト：Ree(スタジオ・ぶ〜)

今回は、Funky Goods連載5周年に当たる。1994年4月号より「Funky Goods in 秋葉原」のタイトルで開始した本コラムも、早いものでもう5年である。途中1年間の充電期間(放電期間?)をとったり、また休載した号もあるなど、すっかり不規則連載の様相を呈してしまっているが、よくまあ続いたものだ。

いやしかし、筆者も自分で呆れるくらい、毎回いい加減で怪しい記事を書いてきたつもりだが、それを野放しに掲載しちゃ編集部も編集部だな。本コーナー、いつまで続くかはわからないが、ますますギークでマイナーでカルトな記事に専念しようと思う波多利朗であった。

というわけで、おそらく誰も祝ってくれないと思うので、今回の「波多利朗のFunky Goods」は勝手に5周年記念企画と称して、久々に正統派謎パ〜機について述べたいと思う。

それにしても、PC WAVE もずいぶん

長く続くねえ。某編集者曰く「最初から倒れている人は倒れない」ってことみたいだけど、ホント、よく言ったものだづくづく思うよ。

謎パ〜マニア御用達? カリフォルニア・デジタル

アメリカのパソコンショップ「カリフォルニア・デジタル」といえば、謎パ〜マニア諸氏にとっては結構有名である。筆者も4年ほど前にパームトップ・パソコンのシーラカンス的存在であったPoqet PC Classic (PQ0164)を購入して以来、何回か同店の通販を利用している。このショップの特徴は品揃えにギークなものが多いことで、以前にはSunrise 1805というXeroxのLaptopマシンを39ドルで購入したこともある。

ちなみにこのマシン、CP/Mを使用したレトロパソコンであり、発売当時の価格は2995ドルであったそうだ。筆者宅の

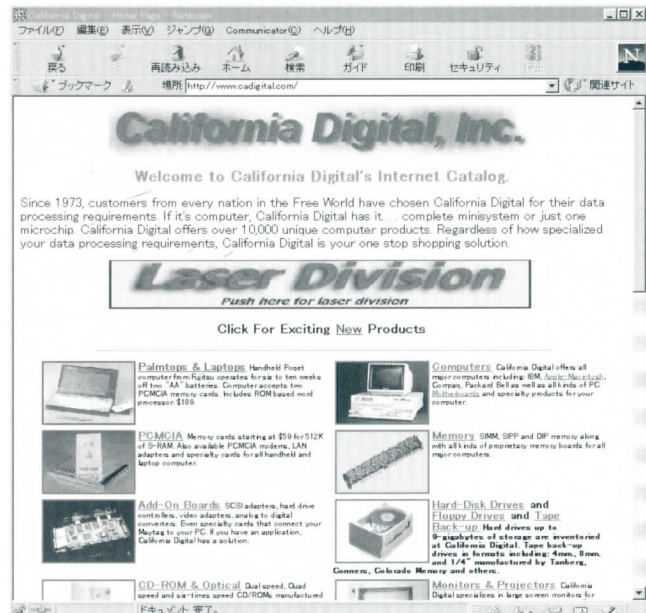
倉庫に眠っているのも、機会があればご紹介しようかと考えている。

それはさておき、カリフォルニア・デジタルの在庫品は、まるで倒産した会社の倉庫から、1キロなんぼで買い取ってきたような怪しいモノが多い。

同社はホームページを開設しており(<http://www.cadigital.com/>) (画面1)、筆者もときどきチェックしているのだが、このほどあのPoqet PC Classic (Model No.PQ0164)の後継機種であるPoqet PC Plusが、なんと99ドルで発売されていたので、思わず購入してしまった。今回はこのPoqet PC Plusについてご紹介してみよう。

30ドルも値上げされた Poqet PC Plus

筆者がカリフォルニア・デジタルのホームページ上でこのPoqet PC Plusを見つけたのは昨年末頃だったと思うが、



画面1 カリフォルニア・デジタル社のホームページのトップ画面。怪しいモノが多い



画面2 Poqet PC Plus掲載ページ。ちょっと前までは、このページに旧モデルのPoqet PC Classicの写真が掲載されていた。紛らわしい!



写真1 購入したPoquet PC Plusの商品構成。ACアダプタやチャージャーなどが一式セットになっている



写真2 Poquet PC Plus 本体の外觀。でかい！重い！

そのときには確か本体価格が「\$99」と掲載されていた。ところが、筆者が発注した今年1月頃には「\$129」に値上げされているのだ。

思うに、商品掲載と同時に謎パーマニア（とくに極東）からの発注が相次いだため、こりゃ儲かると踏んだカリフォルニア・デジタルは果敢にも値上げに打って出たのであろう。しかしこのやり方、敵もなかなかやるではないか！ 筆者は幸運にも99ドルで購入できたので、今回はとくに文句を言わないことにするが、僅差で129ドルで購入しなければならなかった方はお気の毒様である。

さて、同社のホームページ上では、下記URLに製品の詳細が記載されている。

<http://www.cadigital.com/palmtop.htm> (画面2)

ところで、現在ではこのホームページ上にちゃんとPoquet PC Plusの製品写真が掲載されているが、筆者が購入したときは、旧モデルであるPoquet PC Classicの写真が掲載されていた。そんなわけで、当然筆者はPoquet PC Classicと同じようなデザインで、同程度の大きさのパームトップが届くものと信じていた。

カリフォルニア・デジタルのホームページの解説を読むと、Poquet PC PlusはPCMCIA Type IIが使用でき、CGA液晶にはバックライトまで付いているシロモノであるといったことが書かれている。期待は高まるばかりだ。

発注後10日程度という迅速なデリバリーで届いたPoquet PC Plusは、しかし旧モデルとはまったく異なるデザインの製品であった。

本体はサイズ/重量とも旧Poquet PCよりかなり大きい

今回99ドルで購入したPoquet PC Plusは、本体、ACアダプタ2個、電源ケーブル2本、バッテリーチャージャー1台、専用Ni-Cdバッテリー2個(うち1個は本体に装着済み)、それにユーザーズマニュアル(コピー版)から構成されている(写真1)。

● Poquet PC Plus 本体

ご覧いただくとわかるが、旧Poquet PCと比較して、大きく重くなっている(写真2、3)。かなりの肥満体だし、なにより無骨である。これではポケットに入れて持ち歩くのはかなりしんどいものがある。旧Poquet PCは黒い筐体に真っ赤なストライプが入っており、なかなかオシャレであったが、Poquet PC Plusは全体が濃い茶

色で、こういったデザイン面での遊びはない。

価格からして当然セコハンであるとは思っていたが、かなり使い込まれた製品のように、全体としてキレイなほうではあるが細かいキズも目立つ。本体裏面には下記の記載がある。

Serial No. 020100005002

Model No. PQ-0201

Fujitsu Personal System Inc. Santa Clara, CA 95054

Made in Japan

製造年月日だが、おそらく1993年頃ではないかと思われる。購入した製品には、本体背部に突起物があり、D-Sub 9ピンのコネクタと、6個の接点実装されている(写真4)。これはどうやら後付けされたもので、トルクスネジで取り外すと、本体には独自仕様の10Pコネクタと26Pコネクタが現れた(写真5)。

マニュアルによれば、向かって左側の

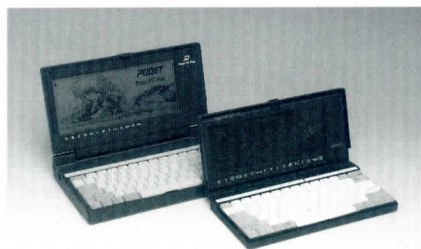


写真3 旧モデルのPoquet PC Classic (左) のほうがオシャレだ



写真4 購入したPoquet PC Plusの背面には、謎のアダプタが付いている

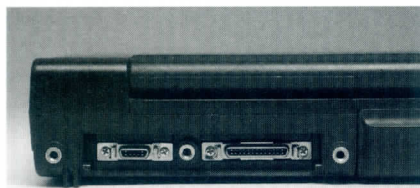


写真5 アダプタを取り外すと、2個のシリアルポートが現れる。向かって左側のコネクタがTTLレベル、右側のコネクタがRS-232Cポートである

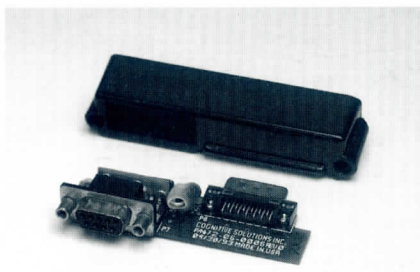


写真6 Poquet PC Plusの背面に付いている謎のアダプタの内部。D-Sub 9ピンと接点部分にRS-232Cを分配させている

10PコネクタがTTLレベルのシリアルポート (Port B) で、右側の26PコネクタがRS-232Cポート (Port A) とのことである。後付けされていた突起物の基板には、「COGNITIVE SOLUTIONS INC USA 9330」と表記されており、内部で26Pコネクタのほうに接続されていた。

この突起部はどうやら、本体のRS-232CポートをD-Sub 9ピンと接点部分に配分させるために付けられたものようである (写真6)。

●ACアダプタ(2個)

「Fujitsu Model No. CA01007-0151」との記載があるACアダプタが2個添付されている。入力100～240V、出力15V 1.33Aの仕様である。アダプタ本体もそこそこかい。このアダプタは、Poquet PC Plus本体と付属のバッテリーチャージャーの両方に共通して使用することが可能である。

●ACアダプタ用電源ケーブル(2本)

ACアダプタに使用するための電源ケーブルである。

●専用Ni-Cdバッテリー(2個)

「Model No. PQ-0502」と記載されたNi-Cd充電電池が2個添付されている。容量は

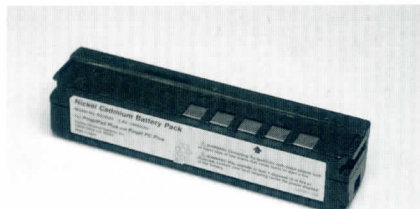


写真7 Poquet PC Plus 専用のNi-Cdバッテリー。旧モデルでは単三乾電池が使用できたが、Plusでは専用バッテリーになってしまった

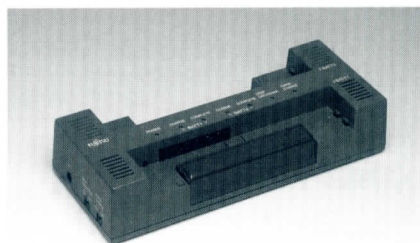


写真8 バッテリー・チャージャー本体外観。ただか2本のNi-Cdバッテリーを充電するだけなのに、異様にでかい！

2.4V 1400mAhである。ラベルには「For Poquet Pad Plus and Poquet PC Plus」と表記されているため、Poquet PC PlusのほかにもPoquet Pad Plusという製品にも使用されていたものと思われる。電極は5個 (S、一、T、十、C) 付いている (写真7)。

●バッテリーチャージャー(1台)

「External Battery Charger Model No. PQ-0528」と記載されたこのバッテリーチャージャーも、異様にでかい。(写真8) バッテリーは2本同時に充電できる。こ

のチャージャー用電源は、本体と同じACアダプタが使用できる。製品表面には「1994-02」の記載がある。

●ユーザーズマニュアル(1冊)

Fujitsuのマニュアルのコピーをバインダーでまとめたもので、Poquet PCのときと同じような感じである。

バックライトも付いて 格段に見やすくなった液晶

Poquet PC Plus本体の大きさは、228×130×38mm (突起部分を含まず) で、かなり大きくかつ厚い。本体をただけでは、これがPoquet PC Classicの後継機種とは思えないのだが、キーボードは旧モデルを踏襲しており、面影が残っている (写真9)。

ただし、Poquet PC Classicのキーボードが全体に明るいクリーム色であったのに対して、Plusでは明るいグレーに変わっている。その他、キーボードの細部の相違点としては、以下の点が挙げられる。

- ・Escキーが若干長い。
 - ・Poquetキーがない。代わりにFnキーが配置されている。Fnキーは他のキーよりも若干長くて大きい。
 - ・電源キーが緑色で「On」と書かれている (PoquetはI/O)。
 - ・ScrLkキーの横にあったリセットボタンが、BackSpaceキーの横に移動している。
- なお、キーを押した感じは、Poquet PC

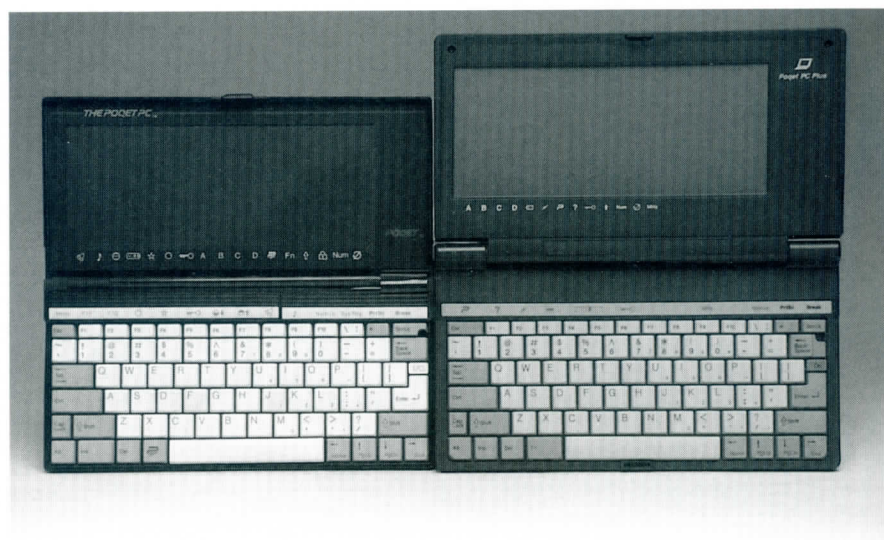


写真9 左がPoquet PC Plus、右がPoquet PC Classicのキーボード。クリック感は双方ほとんど同じだ



写真10 Poqet PC Plusに付いている「謎」の足。足付きのバームトップ機というものはじめてである

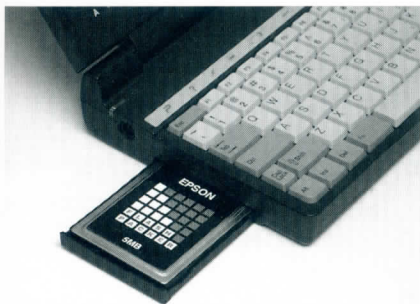


写真11 旧モデルと同様、トレー式のPCMCIAカードスロットを採用している。ただし、PlusではPCMCIA Type IIが使用できるところが異なる



写真12 モデムカードのように「ブタの尻尾」が出るカードに対応するため、各トレーの側面部分がフタになっている



写真13 内蔵メモリをバックアップするNi-Cdバッテリーは、なんと、粉を吹いており、これ以上なく死んでいた……

Classic そのものである。

実は今回、Madam Fatal氏も筆者と一緒にPoqet PC Plusを購入したのだが、氏のマシンは、本体下部に高さ1cmほどの意味不明な「足」が付いており、巨大な謎となっている。それにしても、「足」付きのバームトップ機というものはじめてだ(写真10)。

Poqet PC PlusではPCMCIA Type IIカードも使用可能となっている。しかし、PCMCIAカードスロットは、Poqet PC Classicと同様にトレー式を採用している(写真11)。カードトレーは、本体右側がAドライブ、左側がBドライブとなっている。モデムカードのように、いわゆる「ブタの尻尾」が付くカードのために、各トレーの側面部分は開閉可能な構造である(写真12)。

Poqet PC Plusには、メインバッテリーを取り外したときに内蔵メモリのデータを保存するためのバックアップバッテリーと思われるものが、本体下部に格納されている。このNi-Cdバックアップバッテリーだが、経年変化のため粉を吹いてしまっており、いまとなっては使いものにならない(写真13)。したがって、購入した製品では、メインバッテリーを外すとデータがすべて消去されてしまう。

Poqet PC Classicと比較して、一番進歩したところが液晶である。アクティブエリア172×66mmの液晶画面は非常に見やすく、Poqet PC Classicのように表示速

度が遅いということもない。さらに、この手の謎バーム機としては珍しくバックライトまで付いていて、まさに至れり尽くせりだ。Poqet PC Classicの液晶は、視認性が悪いのに液晶パネル前面がテカテカ光っており、画面撮影の際にはカメラマン泣かせであったことを思うと、格段の進歩である(写真14)。

表1に、Poqet PC PlusとPoqet PC Classicの仕様比較表を示す。

初期状態ではPCMCIAカードドライバのみ設定されている

さて、Poqet PC Plusを起動させると、表2のメッセージが出力される。

初期状態では、PCMCIAカードドライバを導入しただけの設定となっている。起動時には、Cドライブ中のconfig.sysとautoexec.batの内容が反映される。ちなみに、デフォルト状態での両ファイルの内容は下記のとおりである。

<デフォルトのconfig.sysの内容>

```
FILES=30
BUFFERS=30
STACKS=9,256
DEVICE=C:\MS\SYSTEM\IO\BIOS\CDROM.SYS
REM DEVICE=D:\RAMDISK\RAMDISK.SYS 32
DEVICE=D:\PC\PCSS.EXE
DEVICE=D:\PC\PCCCU.EXE
DEVICE=D:\PC\PCCARD.EXE
```

<デフォルトのautoexec.batの内容>

```
@ECHO OFF
```

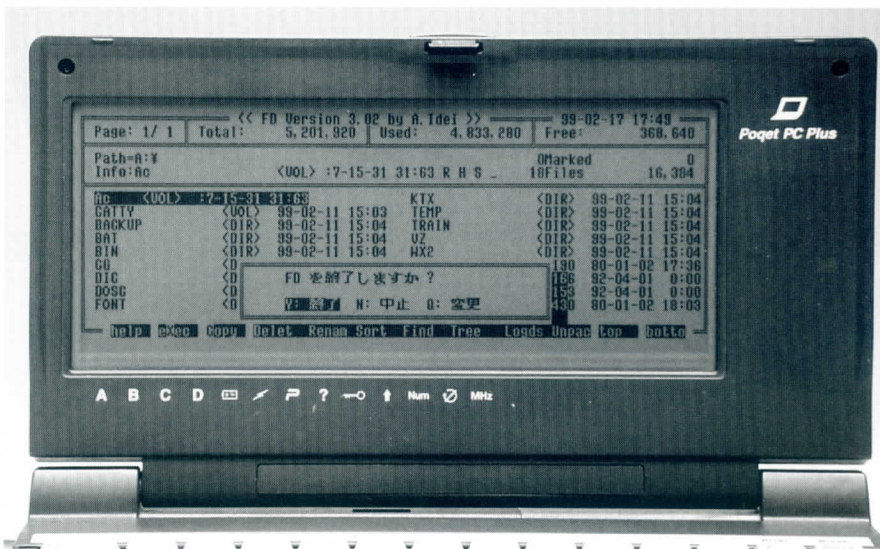


写真14 視認性が格段に向上したPoqet PC Plusの液晶画面。バックライトも付いていて、至れり尽くせりの設計だ

◎表1 Poqet PC Plus と Poqet PC Classic の仕様比較

	Poqet PC Plus	Poqet PC Classic
モデル	PQ-0201	PQ0164
メーカー	Fujitsu Personal System Inc.	Poqet Computer Corp.
CPU	V30 (16/8/4/2MHz)	80C88 (7MHz)
メモリ容量	MaskROM 1MB、FlashROM 1MB RAM 2MB	ROM 640KB RAM 512KB
液晶	モノクロ 640×200 ドット (CGA と MDA を選択可能)	モノクロ 640×200 ドット (CGA と MDA を選択可能)
アクティブエリア	173×66mm	173×66mm
キーボード	QWERTY 77 キー	QWERTY 77 キー
I/O ポート	Serial A (RS-232C) Serial B (TTL) (ともに独自仕様コネクタ)	本体背面の専用拡張スロットに 専用ケーブルを接続して使用する (シリアル/パラレル使用可能)
本体重量	790g (バッテリーを含む)	450g (乾電池を含む)
バッテリー	専用 Ni-Cd 充電電池 1 個 持続時間: 2～8 時間	単三乾電池 2 本 持続時間: 約 100 時間
PCMCIA	PCMCIA Type II × 2 基実装 2MB までの SRAM Card 20MB までの SunDisk Flash Card	PCMCIA Type I × 2 基実装 2MB までの SRAM Card
サイズ	228(W)×130(D)×38(H)mm	223(W)×109(D)×25.4(H)mm
内蔵 OS	MS-DOS Ver 5.0 ROM 版	MS-DOS Ver 3.30 ROM 版
付属品	AC アダプタ バッテリーチャージャー	
オプション	不明	シリアル・モデムケーブル パラレル・プリンタケーブル 外付けフロッピーディスクドライブ

```

PATH=C:\D;
PQAUTO
IF NOT ERRORLEVEL 4 \AUTOEXEC
PROMPT $P$G
ECHO Ref R3.062
VER
PQTIME
IF NOT ERRORLEVEL 4 GOTO NOTIME

```

◎表2 Poqet PC Plus 起動時のメッセージ

```

BIOS 8086 V3.062
Copyright (c) 1993 Fujitsu Personal Systems, Inc.
All right reserved

Phoenix PCMCIA Socket Services
For Fujitsu PP+/PC+ V1.6
Copyright (c) 1993, Phoenix Technologies Ltd.
Copyright (c) 1993, FUJITSU LIMITED.
All Rights Reserved.
Phoenix PCMCIA PP+/PC+ Card Configuration Utilitu. V1.0
Copyright (c) 1993, Phoenix Technologies Ltd.
Copyright (c) 1993, FUJITSU LIMITED.
All Rights Reserved.
Level 7.2
PP+/PC+ PCMCIA Card Driver V1.10
Copyright (c) 1993, FUJITSU LIMITED.
All Right Reserved.
Ref R3.062

MS-DOS Version 5.00

c:>

```

次に、各ドライブの状態を見てみよう。デフォルトの状態では、CドライブとDドライブの2つがある。初期状態でのconfig.sysからもわかるように、RAMDISK.SYSがコメントアウトされているため、RAMディスク(Eドライブ)は生成されていない。

Cドライブには、DOSコマンドとconfig.sys、autoexec.batが格納されている。

Dドライブには、ソケットサービス、カードサービスなどのドライバソフトが格納されている。CドライブのDOSコマンド関連とDドライブのドライバソフト関連は削除することができない。

表3に各ドライブのCHKDSKコマンドの結果を示す。

初期状態では、Cドライブでは約17KB、Dドライブでは約87KB程度のメモリが使用可能となっている。いずれも容量的には少ないが、config.sysとautoexec.batを格納するには十分である。

Poqet PC Plusの内蔵RAMは2MBとなっており、このうち640KBはコンベンショナルメモリとして使用されている。残りのメモリは、RAMDISKもしくはEMSとして使用することが可能で

◎表3 各ドライブのCHKDSKコマンドの結果

CHKDSK C:の結果
Volume FPSI DOSROM created 01-08-1993 5:00a Volume Serial Number is 0002-100A
1070080 bytes total disk space 94720 bytes in 5 hidden files 957952 bytes in 63 user files 17408 bytes available on disk
512 bytes in each allocation unit 2090 total allocation units on disk 34 available allocation units on disk
654336 total bytes memory 565040 bytes free
CHKDSK D:の結果
Volume Serial Number is 4B35-3A08
517120 bytes total disk space 512 bytes in 1 directories 429056 bytes in 23 user files 87552 bytes available on disk
512 bytes in each allocation unit 1010 total allocation units on disk 171 available allocation units on disk
654336 total bytes memory 565040 bytes free



ある。

Poqet PC PlusのEドライブをRAMDISKにする場合には、config.sys 中の

```
REM DEVICE=D:\RAMDISK.SYS 32
```

にある「REM」を外せばよい。上記の設定では、Eドライブは32KBのRAMDISKとなる。RAMDISKは、0～1344KBの間で設定可能である。ちなみに最大容量の設定は、

```
DEVICE=D:\RAMDISK.SYS 1344
```

となり、Eドライブは1344KBのRAMDISKとして使用可能となる。実際にはRAMDISKとして1024KB程度を確保し、残りをEMSに割り当てるのが実用的と思われる。

PTV-30の設定をベースにPlusの日本語化を行う

さて、Plusの素性もだいたいわかってきたので、ここでお約束の日本語化を行ってみよう。

Poqet PC Plusの日本語化(DOS/C化)は、かのInstant Tech 製謎パ〜機「PTV-30」(写真15)の設定をベースに行うと簡単である。以下、謎パ〜機マニアの方にはあえて説明するまでもないと思うが、日本語環境構築方法について記載しておくことにする。なお、下記の方法はあくまで例であるので、あらかじめご了承ください。

(1)フラッシュメモリカードの導入

今回は、Aドライブにフラッシュメモリカードを導入し、そのなかに日本語環境構築プログラムを格納した。また、

写真15 謎パ〜機の古典的名作、Instant Tech製「PTV-30」

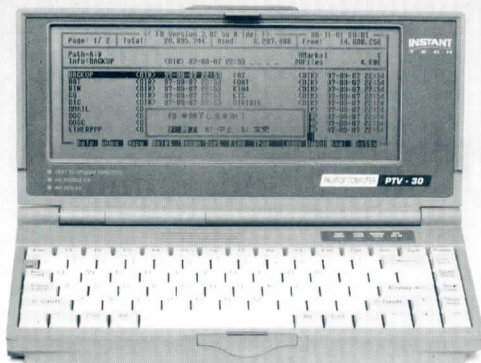


写真16 今回使用した EPSON FLASH PACKER 5MB。1994年製造

config.sysはCドライブのルートに置き、autoexec.batはAドライブのルートに配置している。

今回使用したフラッシュメモリカードは、EPSON FLASH PACKER 5MB(1994年SunDisk製)である(写真16)。

なおこのほかに、Kodak Picture Card 4MBというCompact Flashカード(1997年SanDisk製)を、ハギワラシスコム製COMPACT FLASH CARD ADAPTERを使って接続したのも、問題なく動作している(写真17)。

聞くとところによると、Poqet PC Plusでは、かなりの種類のフラッシュメモリカードを認識するようである。

初期状態で起動したPoqet PC Plusは、Cドライブのルートにあるデフォルトのconfig.sys中でカードサービスドライバ関連が組み込まれているため、Aスロッ



写真17 Kodak Picture Card 4MBというCOMPACT FLASH カード (SanDisk 1997年製造) を、COMPACT FLASH CARD ADAPTER を使って接続したのも動作する

トにフラッシュメモリカードを挿入するだけで認識する。ここでFORMATコマンドを使用して、カードのフォーマットを行っておく。

(2)必要ファイルのコピー

まず最初に、Aドライブとして認識されたフラッシュメモリカード上に、日本語化に必要な各種ファイルをコピーする。

●フォントファイルのコピー

フォントファイルは、HP200LX日本語化キットに使用されているオカヤシステムウェアのフォントを使用した。AドライブにFONTディレクトリを作成し、そのなかに下記ファイルをコピーする。

LXHN16X.FNT	16 ドット半角フォント
LXZN16X.FNT	16 ドット全角フォント
LXHN11X.FNT	11 ドット半角フォント
LXZN11X.FNT	11 ドット全角フォント
LXHN08X.FNT	8 ドット半角フォント
LXZN08X.FNT	8 ドット全角フォント

●日本語ドライバのコピー

日本語表示を行うにあたり、今回はフォントマネージャとしてfontman.exeを、またCGA用ディスプレイドライバとしてyadc.exeを使用する。AドライブにDOSCディレクトリを作成し、そのなかに下記の必要ファイルをコピーする。

```
FONTMAN.EXE
FONTMAN.INI
```

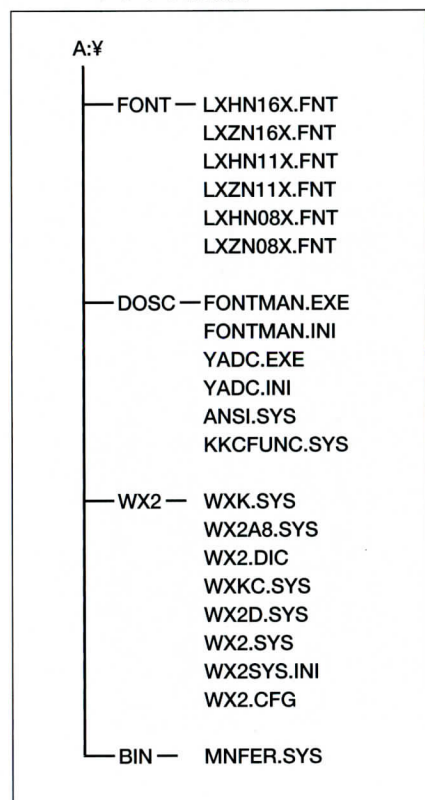
YADC.EXE
YADC.INI
ANSI.SYS
KKCFUNC.SYS

● mnfer.sys のコピー

Poqet PC Classicの場合もそうだったが、Poqet PC PlusもキーボードにXT互換のものを採用している。したがって、Poqet PC Plusを使用するうえでもmnfer.sysを導入する。これは意外と見落としがちな点で、筆者も最初mnfer.sysの導入を忘れてしまったため、日本語化したあとでハングアップを起こしてしまった。

mnfer.sysとは、もともとオムロンのMassif用に作成されたデバイスドライバで、Massifに内蔵されているVJEと以外のでFEPを動作させるためにつくられたものである。オムロンのMassifはPC/XT互換のマシンであるため、PC/AT用に作成されたFEPなどのソフトで動作しないものが出てくる。そこで、mnfer.sysを導入して、PC/XT互換機上でもこれらのソフトが動作するように設定する必要がある。

◎表4 日本語環境を構築した場合のディレクトリ構成例



今回はBINディレクトリを作成し、そのなかにmnfer.sysを格納した。

● FEP WX2+ のコピー

AドライブにWX2ディレクトリを作成し、そのなかにWX2関連ファイルをコピーする。

Poqet PC Plusに日本語環境を構築した場合のディレクトリ構成例を表4に示す。

(3)環境設定ファイルの編集

次に、日本語化を行うソフトウェアの環境設定ファイルを編集する。

編集を行うファイルは、AドライブのDOSCディレクトリ中にあるfontman.iniファイルで、下記のように修正を行う。

● FONTMAN.INI の設定

```
;
;fontx2 フォント定義
;
[fontx2]
a:¥font¥lxhn16x.fnt
a:¥font¥lxzn16x.fnt
a:¥font¥lxhn11x.fnt
a:¥font¥lxzn11x.fnt
a:¥font¥lxhn08x.fnt
a:¥font¥lxzn08x.fnt
```

(4)日本語環境の構築

```
FILES=30
BUFFERS=30
STACKS=9,256
DEVICE=C:¥OS$CLOCK.SYS
REM DEVICE=D:¥RAMDISK.SYS 32
DEVICE=D:¥PQSS.EXE
DEVICE=D:¥PQCCU.EXE
DEVICE=D:¥PQCARD.EXE

device=a:¥dosc¥fontman.exe -d -fa:¥dosc¥fontman.ini
device=a:¥dosc¥yadc.exe -b+ -bd -v70 -h11

device=a:¥dosc¥kkcfunc.sys
device=a:¥dosc¥ansi.sys
device=a:¥bin¥mnfer.sys

device=a:¥wx2¥wxk.sys /a1
device=a:¥wx2¥wx2.sys /Da:¥wx2¥wx2.dic /a1
```

```
@echo off
prompt $p$g

set temp =a:¥temp
set tmp =a:¥temp

path=a:¥bat;a:¥vz;a:¥dosc;a:¥bin;a:¥dmail¥bin;a:¥ktx;c:¥;
```

初期状態でCドライブ上に生成されているconfig.sysファイルを編集し、日本語環境を構築する。

Cドライブ上のconfig.sysファイルには、デフォルト状態でPCMCIAカードサービス関連のドライバが組み込まれている。このファイルに追加するかたちで、config.sysに日本語環境を構築する。

筆者のマシンでのconfig.sysファイルの例を表5に示す。

今回、autoexec.batファイルはAドライブのルートに配置した。筆者の環境でのautoexec.batファイル例を表6に示す。

(5)System Setup Menu の設定

Poqet PC Plusには、System Setup Menuという機能があり、ここでは、ビデオアダプタの種類、ブートドライブやconfig.sys、autoexec.batが置かれているドライブのサーチ順が設定できるようになっている。System Setup Menuには、Fn + Esc キーを押すことで入ることができる(写真18)。

System Setup Menuでは、config.sysのサーチ順について設定する必要がある。今回の設定では、config.sysをCドライブ上に置いている。これは、システム起動時は、PCMCIAカードサービス関連のドライバが組み込まれないと、フラッシュメモリカードをAドライブとして認識し

◎表5 日本語化したときのconfig.sys例(Cドライブのルートディレクトリに置く)

◎表6 日本語化したときのautoexec.bat例(Aドライブのルートディレクトリに置く)

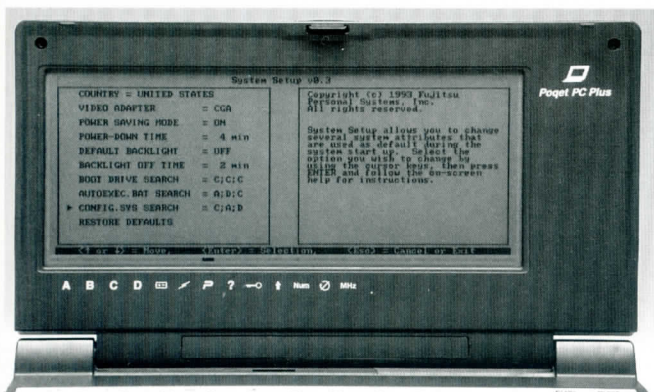


写真18 System Setup Menu画面。ここでビデオアダプタの種類、ブートドライブやサーチの順番などの設定を行う

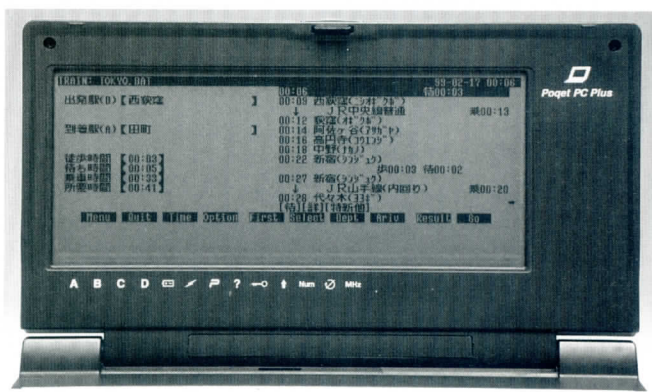


写真20 Poquet PC Plus上で動作しているTrainの画面

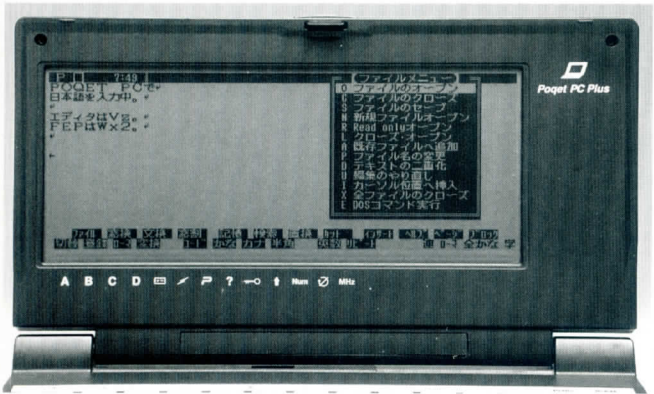


写真19 日本語環境を構築した Poquet PC Plus の画面 (Vz エディタでテキストを編集しているところ)

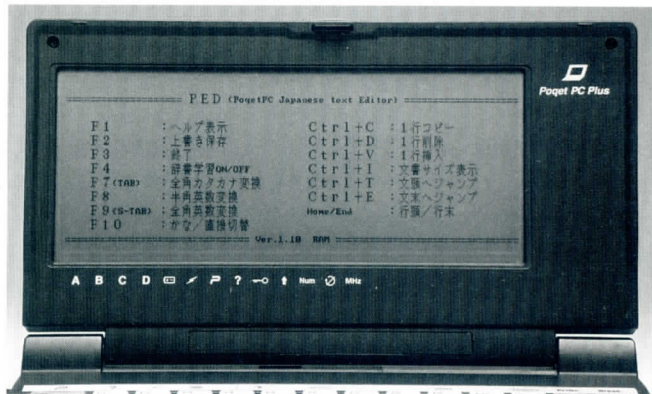


写真21 Poquet PC Plus上で動作しているPEDの画面

てくれないからである。したがって、Cドライブのconfig.sysを最初にサーチするように設定しなくてはならない。

デフォルトの状態では、config.sysのサーチ順が、

CONFIG.SYS SEARCH = A;\D;\C

となっているので、これを

CONFIG.SYS SEARCH = C;\A;\D

に変更する。

autoexec.batのサーチ順については、初期状態で

AUTOEXEC.BAT SEARCH = A;\D;\C

となっているので、これはこのままでよい。

これでマシンを再起動させれば、日本語環境が構築できる (写真19)。

なお、Poquet PCのときには画面モードがデフォルトでMGA互換モードとなっていたため、マシンを再起動させたあとにマニュアルで画面をCGA互換モード

に設定する必要があった。これをやらないと、yadc.exe組み込み時に画面になにも表示されなくなったものであったが、Poquet PC PlusではSystem Setup Menuで起動時の画面モードをCGA互換に固定することができるため、この処理は不要となる。この辺は便利になっている。

EMSを取得してWX2を組み込む

Poquet PC PlusでEMSを取得するのは簡単である。Poquet PC PlusのDドライブ上に格納されているPQEMM.SYSをconfig.sys中に登録することにより、ページフレームアドレスE000でEMSを取得できる。config.sys中に下記の1行を追加すればよい。

```
PQEMM - PoquetPad/PoquetPC Plus Expanded Memory Manager, V1.04
Copyright (C) 1993 FUJITSU PERSONAL SYSTEMS, INC.

Maximum number of pages available = 84
Page Frame Address                  = E000
PQEMM.SYS installed
```

DEVICE=D:\PQEMM.SYS

マシンを再起動させると、表7のメッセージが表示され、EMSが使用可能となる。

筆者のマシンでは最終的に1024KBのRAMDISKをEドライブに設定し、EMSを取得してWX2を組み込んだ。このときのconfig.sysファイルの内容を表8に示す。

また、この設定でのVMAPの結果は表9のとおりである。

日本語環境下での動作はかなり快適

日本語環境下での動作は、V30 16MHz CPUの効果もあり、かなり快適である。Vzエディタなどでのテキスト文書作成

◎表7 再起動時に表示されるメッセージ

◎表8
最終的なconfig.sysの
内容 (Cドライブの
ルートディレクトリに
置く)

```
FILES=30
BUFFERS=30

DEVICE=D:¥RAMDISK.SYS 1024

DEVICE=D:¥PQEMM.SYS

STACKS=9,256
DEVICE=C:¥OS$CLOCK.SYS
DEVICE=D:¥PQSS.EXE
DEVICE=D:¥PQCCU.EXE
DEVICE=D:¥PQCARD.EXE

device=a:¥dosc¥fontman.exe -d -fa:¥dosc¥fontman.ini
device=a:¥dosc¥yadc.exe -b+ -bd -v70 -h11

device=a:¥dosc¥kkcfunc.sys
device=a:¥dosc¥ansi.sys
device=a:¥bin¥mnfer.sys

device=a:¥wx2¥wxk.sys /a1
device=a:¥wx2¥wx2.sys /Da:¥wx2¥wx2.dic /a1
```

◎表9 EMSを取得し、WX2を組み込んだときのVMAPの結果

VMAP Version 2.01 Copyright (C) 1989-91 by c.mos				
addr PSP	blks	size	owner/parameters	hooked vectors
0B45 sys	1	816	ramdisk	
0B79 sys	1	9872	pqemm	67
0DE3 sys	1	576	os\$clock	
0E08 sys	1	4480	pqss	1A
0F21 sys	1	5584	pqccu	
107F sys	1	6272	pqcard	
1208 sys	1	17600	fontman	
1655 sys	1	9696	yadc	15 21
18B4 sys	1	4032	kkcfunc	
19B1 sys	1	4336	ansi CON	1B 29
1AC1 sys	1	320	mnfer	
1AD6 sys	1	11888	wxk	
1DBE sys	1	9776	wx2	10 16
2022 sys	5	21168	<config>	
2552 <--	3	4768	command	22 23 24 2E 2F
267F-9FC0	1	496640	<free>	

EMS ver4.0 (frame: E000h)			
handle	pages	size	name
1	8	128k	WX2K
2	2	32k	WX2
3	1	16k	FD_HISTS\$
free	9	144k	
total	20	320k	

も、申し分のないスピードでサクサクと動く。旧モデルと比較すると、格段に使いやすいと言えるであろう。現在、Vzエディタのほかに、FD、MIEL、TRAINなどの動作を確認している (写真20)。

なお、簡単なベンチマークテストを実施してみたので、結果を表10に掲載しておく。

日本語エディタ PED を A ドライブに導入する

PEDは、Madam Fatal氏が作成した、英語環境下で日本語の入力を可能にするテキストエディタである。PEDを使用すれば、Poquet PC 上での面倒な日本語化 (DOS/C化) を一切行わずに日本語を扱う

ことが可能となる。日本語環境を構築するなど面倒だと思われる方のために、Poquet PC Plus の A ドライブ上に PED を導入する方法を示す。

(1) 必要なファイルの入手

PEDを動作させるためには下記のソフトウェアが必要であり、いずれもNIFTY SERVEからダウンロード可能である。以下に必要なソフトウェアを示す。

・日本語エディタ PED 本体 (Poquet 専用版)

所在地: NIFTY SERVE システム手帳

(PIM) フォーラム (FPIM) →

データライブラリ 2 番 フリー

ソフト・データ (一般)

284 番 PEDPR110.LZH

Poquet 日本語 Editor: RAMfont

・14 ドットフォントファイル (FONT.14):

HP95LX 用日本語エディタ「jmemo」の14ドットフォントファイル

所在地: NIFTY SERVE FHPPC LIB15

旧 FYHP LX 関係ソフト

#17 FONT14.LZH JMEMO

用 14Dot Font

・かな漢字変換用辞書ファイル (JISYO.DIC

JISYO.IDX): HP95LX 用「jmemo」のラージ辞書ファイル

所在地: NIFTY SERVE FHPPC LIB15

旧 FYHP LX 関係ソフト

#18 JISYO_L.LZH JMEMO 用

辞書 (大)

(2) ファイルのコピー

上記ファイルを Poquet PC Plus の A ドライブ上にコピーする。

・TOOLS ディレクトリを作成し、PED PR110.LZH をコピーし展開する。

・FONT ディレクトリを作成し、FONT 14.LZH をコピーして展開する。

・DIC ディレクトリを作成し、JISYO _L.LZH をコピーし展開する。

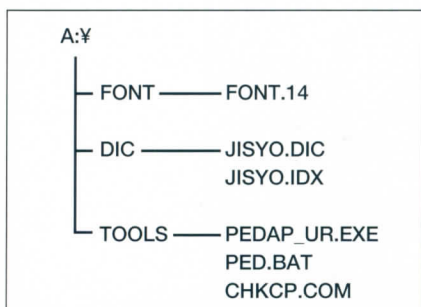
また、PED 本体が格納されているディレクトリ (この場合は TOOLS ディレクトリ) にパスを通しておく。以上の手順を踏むと、ディレクトリ構成は表11 になる。

(3) 起動方法

PEDを使用する場合には、まず英語環境にしておく必要がある。すでに日本語

◎表10
ベンチマークテ
ストの結果

CPUBENCHの結果	
80X86 CPU Speed TEST v0.980 Copyright 1992 ZOBplus Hayami	
DHRYSTONE 300000 LOOPS	
Execute memory area: 6000:0000 ->6000:1C28	
CPU Type: V30 Not FPU	
Ratio to the first PC9801 : 5.08	
Execute time : 13.58 sec.	
DBENCHの結果	
Dhrystone Benchmark 300000 loops...	
Copyright(c)1992 ASCII Corp. and Tadatoshi Hirono	
Execution time 175 second	
1714.29 dhrystones/second	
PC-9801DA2 (386/20M) ratio 0.38	



◎表11 PED本体が格納されているディレクトリの構成

環境が構築されていれば英語モードに切り換えなくてはならない。

● PEDの起動方法

PED【ファイル名】

とすればよい。ファイル名を指定しないとPEDは起動しない。手取り早く日本語エディタを使用したい向きには最適なソフトである(写真21)。

▶ デリカシーに欠ける部分もあるが怪しさはピカイチ

最後に個人的な感想を一言述べたい。

Poqet PC Plusは、性能的にはアップしているものの、若干デリカシーに欠けるような気がしてならない。これは、旧モデルと比較して全体的に肥満体になったことや、デザインが無骨であることが原因である。電源についても、旧モデルでは、どこでも入手可能な単三乾電池であったが、今回は専用の充電電池を使用しており、この点も気に入らない。

まあ、文句を言えばキリがないが、怪しさはピカイチであり、いろいろと遊ぶにはもってこいだろう。似たような仕様

の製品が多い昨今の携帯端末のなかには、格好のオモチャになるものと思われる。

というわけで、今回は「波多利朗のFunky Goos 5周年記念」にふさわしい怪しさを持つPoqet PC Plusをご紹介します。

▶ 謎パーマニアは要チェックのWEB上のコラム

以前本誌でもご紹介した「謎ぱー研究所」(<http://www.geocities.co.jp/SiliconValley-PaloAlto/2960/>)を主宰しておられる永沢雄仁氏が、MOBILE NEWS WEB ページにコラムを連載されている。URLは下記から辿っていただきたい。

<http://www.mobilenews.ne.jp/doc/serial.html>

コラム名は「永沢雄仁のマイナー携帯マシンの世界」で、毎回レトロでマイナーなPDA、パームトップに焦点を当て、解

説を加えている。「最新のコンピュータより、味のあるレトロマシンを愛する」という氏のポリシーを感じさせる、非常にユニークで面白い連載なので、謎パーマニアの方は要チェックだ。

ちなみに、1999年2月15日掲載の第4回では、「元祖レトロパームトップ、Poqet PCシリーズ」と題して、今回ご紹介した「Poqet PC Plus」を取り上げてられている。

▶ 波多利朗の次回予告！ 悪夢にうなされそうなキーボード

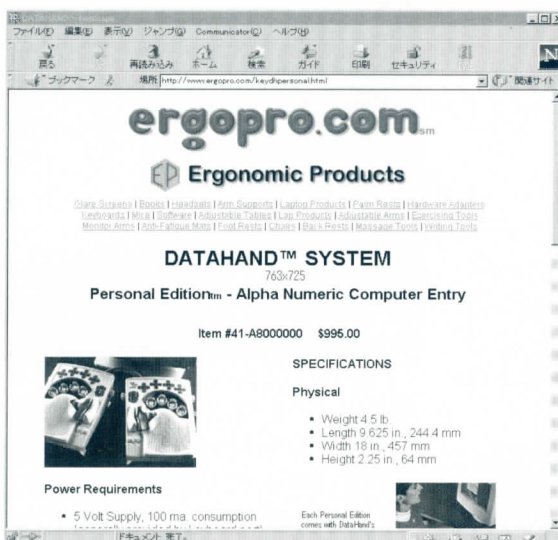
行き当たりばったりで書いている本欄であるが、今回は珍しくも次回の予告をしておこうと思う。

筆者はキーボードにはこだわりすぎているほうだが、空前絶後のキーボードがアメリカのアリゾナ州より入ってきた。以前少し触れたことがある、DATAHAND SYSTEMのDATAHAND Keyboard Personal Editionがそれだ。とてもキーボードとは思えない奇抜な外観は、一目見ると夢に出てきそうな怪しい形をしている。値段も995.00ドルと、数ある筆者のキーボードコレクションのなかではダントツの高さだ。

今回は、エルゴノミックキーボードの極北とも言えるこの製品をご紹介したい。

ちなみに、気になる外観をご覧になりたいという方は、下記URLにアクセスしていただきたい。

<http://www.ergopro.com/keydhp.html> (画面3)



画面3
DATAHAND Keyboard Personal Editionが紹介されているergopro.comのページ。それにしても、けったいな格好ではあるな